

今週の為替相場見通し(2020年11月16日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		103.20 ~ 105.68	104.62	103.60 ~ 105.30
ユーロ	(ドル)		1.1745 ~ 1.1920	1.1835	1.1700 ~ 1.1950
(1ユーロ=)	(円)		122.72 ~ 125.13	123.78	123.00 ~ 125.50
英ポンド	(ドル)		1.3108 ~ 1.3322	1.3200	1.3050 ~ 1.3250
(1英ポンド=)	(円)	*	135.78 ~ 140.30	138.03	136.50 ~ 139.00
豪ドル	(ドル)		0.7222 ~ 0.7340	0.7271	0.7150 ~ 0.7350
(1豪ドル=)	(円)	*	75.09 ~ 77.10	76.07	74.80 ~ 77.30

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

金融市場部 グローバルFIチーム 木村 優太

(1) 今週の予想レンジ: 103.60 ~ 105.30 円

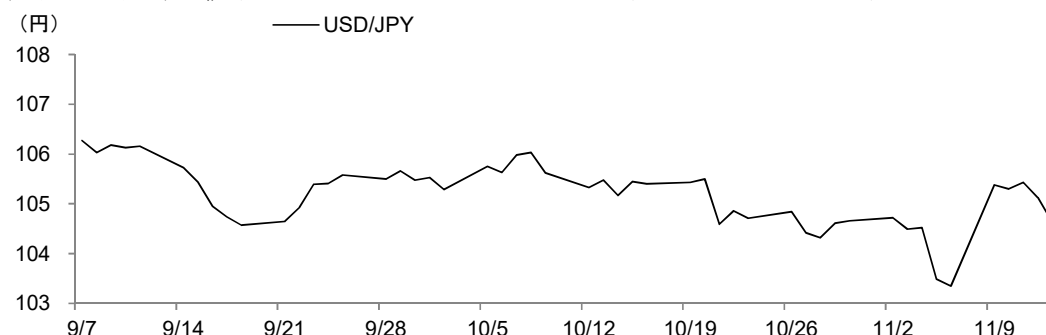
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は週初に急上昇し、週後半はじり安の展開。週初9日はアジエマ時間に週安値の103.20をつけ、東京時間は103.26レベルでオープン。バイデン氏が米大統領選での当選を確実にしたことで株式市場が急上昇したのを受け、ドル/円も堅調に推移。さらに海外時間に新型コロナのワクチン開発の治験結果を受けて急速にリスクオンの円売りが進み、105.64まで上昇。その後の下押しも105.30付近までに留まった。10日は本邦企業のドル売りに押されて東京時間に104.80近辺まで下落したものの、その後105円台を回復。海外時間には米金利上昇を受けたドル買いが継続して105円半ばまで戻す局面もあった。11日は欧米の株価堅調推移や米金利上昇からリスクオンのドル買いが優勢となり、週高値の105.68まで上昇したが、米国休日であることもあって上値を追う展開にはならず。12日は特段の材料がない中、ドル売りのフローが目立ちドル/円はじり安の展開。さらにニューヨーク時間は発表された米10月CPIが予想を下回ったことで105.10近辺まで下落した。13日はアジア株が軟調推移する中、東京時間に104円台を示現。ロンドン時間に一時的に105円台を回復したものの、ニューヨーク時間に発表された米10月PPIが強弱入り混じる結果だったのに反応して再び下落。ワクチン期待で上昇していたクロス円の調整売りもあり、104.62レベルで越週した。

今週のドル/円相場は軟調推移が継続する展開を予想。大統領選直後は、ねじれ議会となる公算が高まる中大規模な財政出動が難しくなると考えられ、米国債の発行が見込みより少なくなるだろうという見通しから米金利が低下した。その結果、株式市場は大幅上昇するリスクオン地合いにも関わらず、ドルが他通貨に対して一方的に売られ、安全資産とされる円さえも買われる展開となっていた。しかし先週ワクチン開発に顕著な進展が見られたことで、米金利が再び上昇し、ドル/円も105円台を回復することとなった。ただし、ワクチンの早期開発期待が上がっても、足下の状況は芳しくないため、この金利上昇が今後も継続することには懐疑的だ。発表された米経済指標は期待通りにはならず、米国での新型コロナ新規感染者数は連日で最多を更新しており、一部の週で医療体制の逼迫が懸念されている。ECBでのパンデミック緊急購入プログラムの拡大を始め、他国の中央銀行が金融緩和体制の継続、強化を示すことで、相対的にドル買いが進むことは考えられるが、基本的にはドル安が継続すると予想する。今週の経済指標は、17日(火)の米10月小売売上高、19日(木)の米11月フィラデルフィア連銀景況指数などが注目される。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(11/9~11/13)の値動き: 安値 103.20 円 高値 105.68 円 終値 104.62 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 上遠野 暁洋

(1) 今週の予想レンジ: 1.1700 ~ 1.1950 123.00 ~ 125.50 円

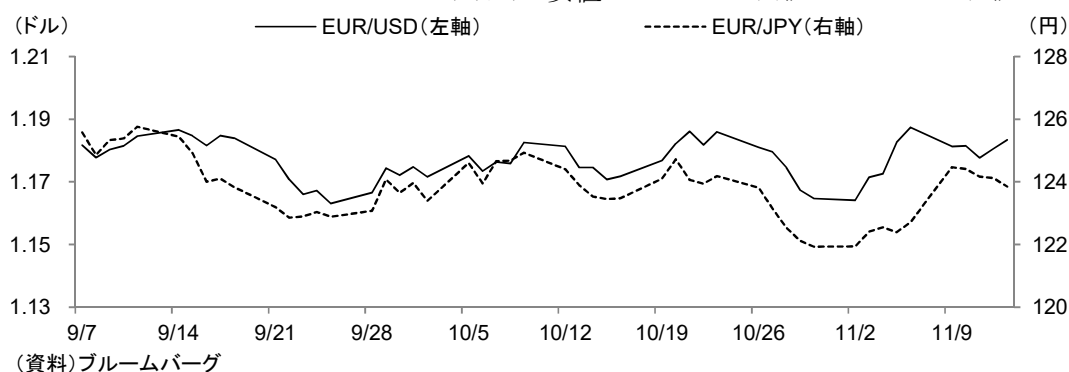
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は下落する展開。週初9日、1.18台後半でオープンしたユーロ/ドルは新型コロナウイルスワクチン開発への期待感から一時週高値となる1.1920まで上昇したが、オプション絡みのドル買いが進むと1.18割れまで反落した。10日には、ユーロ/ドルは1.18台前半まで値を戻す局面があるも、独11月ZEW景況感指数の冴えない結果等を受けて上値は重く1.18台前半でのレンジ推移が継続。11日は、イタリアの新型コロナウイルス感染者数が100万人を超えるなど欧州での感染再拡大を懸念した動き、ラガルドECB総裁の追加緩和を示唆する発言等を受け、ユーロ/ドルは一時週安値となる1.1745まで下落したが、米国市場が休場となる中で動意に乏しい推移が継続。12日には、ユーロ/ポンドがやや上昇する動きやドル売りに、ユーロ/ドルは1.18台前半まで回復。13日についても新規材料に乏しい中1.18台前半での推移を継続し、1.1835レベルでの越週となった。ユーロ/円についても週初9日にワクチン開発期待から125円台前半まで急上昇もその後はじりじりと下落する展開。10日にはユーロ/ドルの下落にユーロ/円も124円台前半まで下落。11日も124円前半から半ばで上値の重い推移を継続し、12日には一時123円後半まで下落する場面があった。その後は一時124円半ば付近まで戻すもドル円の下落が重しとなり、13日には再び124円を割り込み123.78レベルで越週した。

今週のユーロは上値の重い展開を予想。先週は週初から急上昇する場面があったものの、ワクチン開発を巡っては有効性やスケジュールなど不明確な点も多く一旦様子見といったところだろう。むしろ直近では新型コロナウイルス感染者の再拡大に伴う景気減速懸念、ECBの次回会合における追加緩和の憶測等足元材料を並べるとユーロの上値は抑えられやすい。今週の主な経済指標、イベントとしては18日(水)にユーロ圏10月CPI、19日(木)にユーロ圏9月経常収支、20日(金)にユーロ圏11月消費者信頼感指数、またラガルドECB総裁の講演も控えている。同氏は先週、12月ECBにおいてはPEPPやTLTROの拡大が焦点になるとの見方を示しており、新たな金融緩和策に向けたメッセージ発信があればユーロ売りが強まる可能性もありヘッドラインには十分注意をしたい。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(11/9~11/13)の値動き: (対ドル) 安値 1.1745 高値 1.1920 終値 1.1835
(対円) 安値 122.72 高値 125.13 終値 123.78



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.3050 ~ 1.3250 136.50 ~ 139.00 円

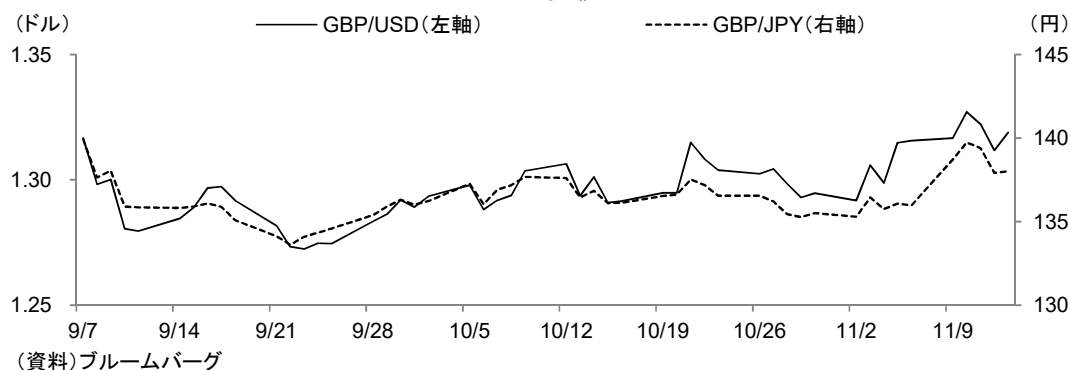
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、方向感の交錯した上下動。予想外の上昇先行で、週央までに水準を切り上げたものの、週引けに掛けて失速。週引け前に小反発したものの、週を振り返れば、対円、対ユーロで小幅上昇、対ドルでは概ね横這いとどまった。この間、主要通貨市場で最も目を引いたのは、9日の円急落。大手製薬会社の一部が、新型コロナウイルスのワクチン開発で大きな進展を見せたことが、世界的な経済活動の正常化期待を高め、株高、円安、新興市場通貨高など、投資市場のリスク許容の動きを誘った。円安で滑り出した主要通貨市場だったが、10日から11日に掛けての値動きはポンド全面高のように見えた。10日には英上院が国内投資法案の採決をしたが、EUとの離脱合意違反と考えられる部分を修正(取り消し)した上での可決=実質的な下院への審議差し戻しとなった。更に、11日には、ジョンソン首相の上級顧問(メディア戦略担当)であるケイン氏が辞任。英政権中枢の混乱は、敢えて読むならポンド売り要因と思われたが、並行して、何故かポンドは堅調に推移した。その後、12日に掛けて頭打ち、一旦調整的な軟調推移に陥ったポンドは、13日にも再び堅調に転じた。同日には、英のEU離脱の立役者のひとりでもあり、辞任したケイン顧問の盟友でもあり、昨年12月の英総選挙で保守党を勝利に導いた選挙参謀でもあり、ジョンソン首相の顧問の中でもひと際存在感を発揮してきたカミングス上級顧問が辞任した。或いは市場は、英政権中枢の混乱を嫌気するよりも、一連の出来事を「EUとの離脱交渉で英側が譲歩する兆候」と好意的に受け止めて、ポンドを買い上げたのかもしれない。

今週の英ポンド相場は、軟調推移継続を予想。確かに、離脱派の「頭脳」と言えるケイン、カミングス両顧問の辞任は、ジョンソン政権の、EUとの離脱交渉方針に少なからず影響を与えよう。ただし、仮に、それが従来以上にEUに対して譲歩する姿勢になったとしても、妥協を見出すのは引き続き容易ではない。EUの単一市場/関税同盟から離脱しながら、アイルランド/北アイルランドの国境を開放したままにするのは、現時点の技術では極めて困難(不可能でなければ)だからだ。だからと言って、実質的な(関税や製品基準の)国境を英本土と北アイルランドの間に引けば(端的に言うなら、EUとの離脱合意の順守)、連合王国(イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドの4か国で形成する)としての統合性が失われることになる。つまり、昨年12月の英総選挙における保守党の単独過半数獲得は、野党側の自滅もあったとはいえ、そもそも不可能を約束することで獲得した勝利で、今になってその立役者たちが政権中枢を去らざるを得ないのも、いわば当然の帰結、政権にとっては「トカゲの尻尾切り」に過ぎないと言える。19日(木)の欧州理事会(サミット)までに、EUとの将来関係交渉が合意に向けて前進する可能性は否めないものの、年明け早々(移行期間終了後)、英EU国境の各方面における混乱を回避できるような解決策が見つかる可能性はほとんどないし、万が一解決策を見出せたとしても、それを現場に周知徹底させる時間は、この期に及んでほとんどないと思う。ポンドに強気になれない決定的な理由である。英からは、今週、18日(水)に英10月CPI、19日(木)に英10月小売売上高などの主要経済指標が発表されるが、ポンドが材料視する可能性は低い。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(11/9~11/13)の値動き: (対ドル) 安値 1.3108 高値 1.3322 終値 1.3200
(対円) 安値 135.78 高値 140.30 終値 138.03



4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 安藤 愛

(1) 今週の予想レンジ: 0.7150 ~ 0.7350 74.80 ~ 77.30 円

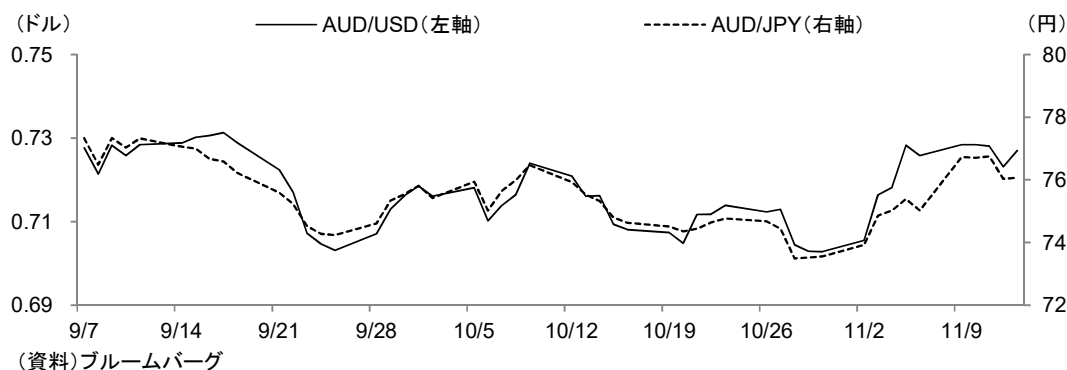
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は0.73台をトライするも失敗。週末のバイデン氏による米大統領選にかかる勝利演説後、9日の豪ドルはギャップアップして0.7270近辺でオープン。ロンドン時間に新型コロナワクチン治験結果に関してポジティブな報道が流れると、リスク資産が次々に上昇。豪ドルは一時0.7340まで上昇した。10日、コロナワクチンにかかるポジティブな報道を受けて前日に米国債利回りが大きく上昇した流れを受けて、豪国債利回りも長期年限ゾーンを中心に上昇し、イールドカーブがベアスティーピングした。豪ドルは0.7280台をはさむ狭い範囲でレンジ推移。11日、RBNZの決定を受けてNZドルが上昇すると連れ高の展開に一時0.7320手前まで上昇。RBNZは政策金利を0.25%に据え置く一方、新たな資金供給プログラムを12月から開始することを発表。経済が予想より良好に推移しているとの認識を持っており、政策金利をマイナスに引き下げる選択肢を残しつつも、その導入の確信が弱まったと解釈された。欧米時間に入ると株高・金利上昇の流れから米ドルが独歩高となり、豪ドルは0.7270台まで下落して引けた。12日、アジア時間序盤には一旦0.73手間まで買い進まれるが、0.73付近に存在する抵抗線に弾かれ反落。アジア時間終盤から欧米時間にかけてコロナ感染第2波への慎重姿勢が再び拡がると、ドル買いのフローが膨らみ豪ドルは0.7230台まで下落して引けた。13日、前日の株安を受けてアジア株が軟調に推移すると豪ドルも序盤は上値の重い値動きに。欧米時間に入ると米株価が反発し、S&P500が最高値を更新する中、米ドルに売りが膨らみ豪ドルは0.7270台まで上昇して引けた。

今週の豪ドルは方向感に欠ける値動きを予想する。今週は、16日ロウRBA総裁講演、18日豪Q3賃金指数、19日豪10月雇用統計等、重要な指標が発表される。先週はコロナワクチンにかかるポジティブな報道でリスクセンチメントが改善したが、欧米では足元新規感染者が急増しており、市場はトーンを決めかねている様子。来週米国ではサンクスギビングホリデーで家族や友人が集まる機会が増える。米国のコロナ感染者が更に急増するようなことになれば、厳しいロックダウンが現実化し、リスクセンチメントが急速に悪化する可能性もある。また、中国が最近オーストラリアからの輸入禁止措置品目を増加させている。豪ドルへの影響は今のところ限定的ながら、ヘッドラインには引き続き注意したい。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(11/9~11/13)の値動き: (対ドル) 安値 0.7222 高値 0.7340 終値 0.7271
(対円) 安値 75.09 高値 77.10 終値 76.07



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。